

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等中学1、2、3年生・特別の教
科 道徳目標・人権教
育のねらい

- ・正義と公正さを重んじ、いじめを許さない強い意識をもち、偏見や差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。
- ・誰に対しても公平に接し続けようとする必要があることをふまえ、自他の不公正に気付き、それを許さないという断固とした姿勢をもち、よりよい社会を実現しようとする態度を育む。

実施した内容

- ・いじめと「人権」の関係を理解する。
- ・実際のいじめ自殺の事例を通して考える。
- ・いじめを受けた人の心情を知る。
- ・いじめが加害者や傍観者に残す傷について考える。
- ・いじめの四層構造について知り、傍観者にいじめを止める力があることを理解する。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・過去にあったいじめ・自死事案を通し、いじめは身近に起こりうることである身近な問題として捉えさせ、いじめをしない・させないためにどうしたらよいかを考えさせた。
- (関係機関との連携)
- ・東京弁護士会所属の弁護士を講師に招聘し、いじめが人権を深く傷つける問題であることを子ども達と一緒に考える授業を行っていただいた。

他教科との
関連

- ・特別活動の学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」、「(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と関連させた。

事業成果

- ・知識的側面：いじめが人権を深く傷つける問題であることを知る事ができた。
- ・価値的・態度的側面：よりよい学級集団を作ろうとする意欲や態度を養うことができた。
- ・技能的側面：問題解決に取り組む力を育めた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等中学1、2、3年生5組（特別支
援学級）・総合的な学習の時間目標・人権教
育のねらい

- ・高齢者への偏見や思い込みを取り除き、高齢者への人権意識を高め、育てる。
- ・それぞれの視点に立ち、人権意識を考えて行動することの大切さに気付く。
- ・高齢者の現状や課題を聞き、日常生活において自分自身が「できること」を考え、実践しようとする態度を育てる。
- ・高齢者に対する思いやりの心を持ち、親切にする意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・家庭や地域での高齢者の生活の様子について話を聞く。
- ・日常生活でできる高齢者への配慮や、どのように対応できるか考える。
- ・調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ、自分たちにできることを考える。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・言葉による説明だけでなく、プレゼンテーションソフトによる視覚的配慮を行うことで、集中しやすい環境作りを行いながら授業に取り組んだ。
- ・調べ学習では、ヒントになるキーワードを挙げることで、一人一人が高齢者に対する人権意識や配慮など自発的に取り組みやすくなるように進めた。

他教科との
関連

- ・特別の教科 道徳において、高齢者に対する偏見や差別意識をもたず、公正・公平な見方や態度について学習した。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識した。

事業成果

- ・知識的側面：高齢者だけでなく、人間は生まれながらにして人権があるということを学んだ。
- ・価値的・態度的側面：家族内など身近なところから高齢者に対する意識を高められるようになった。
- ・技能的側面：高齢者に対し、日常生活でできる配慮や実践法などを考えることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・特別の教科 道徳

目標・人権教育のねらい

- ・人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだす。
- ・障害がある人もない人も思いやりをもって支え合うことができる共生社会を実現しようとする意欲や態度を育む。

実施した内容

- ・アンプティサッカーの選手である古城さんの講演を聞いたり、アンプティサッカーの実演を見せてもらうなどし、アンプティサッカーについての理解を深める。
- ・教室にて古城さんの書いた「アンプティサッカーとともに生きる」を読み、「自分らしくよりよく生きる」ことについて各自考えを深めた。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・障害がありながら、前向きに強く生きる古城さんから直接話を聞き、障害者への理解を深めるとともに、自分の生き方について考えさせた。

(関係機関との連携)

- ・アンプティサッカーの選手でもある古城さんに来校していただき、講演及び実演していただいた。

他教科との
関連

- ・学級活動の時間において、聴覚に障害のある生徒への接し方や手話について学習した。その際、特別の教科 道徳の時間で学んだ思いやりをもって支え合うことの大切さを振り返らせながら指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：社会の中での障害者の現状について理解を深めることができた。
- ・価値的・態度的側面：自分らしく生きることについての意欲を育むことができた。
- ・技能的側面：共生社会の一員として、問題解決に取り組もうとする力を育むことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・同和問題について学び、職業に対する偏見や差別の解消、地域産業の伝統を尊重する態度を育成する。
- ・互いに尊重し合いながらよりよい社会を実現するために行動できるようにする意欲や態度を育む。

実施した内容

- ・人権問題としての同和問題について知り、同和問題と地域の伝統文化のつながりについて講話を聞き、理解を深める。
- ・革細工工芸として、ペンケースを製作する。
- ・一人一つの同和問題の情報収集を行い、ICT機器を活用してスライドにまとめる。
- ・調べ学習で学んだことについて、学級内での人権学習発表会で発表し、今後どのように生かしていきたいかを考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・情報収集の際、資料として活用するときには真偽を正確に判断するよう、情報モラルについて指導をする。
- (関係機関との連携)
- ・東京都人権啓発センター専門員に地域の同和問題の講話をしていただいた。地域の革細工工芸に携わる人と交流しながら革細工を製作した。

他教科との
関連

- ・社会科の歴史分野において、同和問題の歴史、全国水平社について学習した。総合的な学習の時間での生徒の学びを生かしながら、社会科での指導を進めた。

事業成果

- ・知識的側面：同和問題について知り、同和問題と地域の伝統文化とのつながりについて理解を深めることができた。
- ・価値的・態度的側面：同和問題を正しく知り理解することが平等な社会を作ることに気付き、互いに尊重し合い生きていく意欲や態度を育むことができた。
- ・技能的側面：複数の情報を収集し分析する力や、発表会を通して自己表現したり相手の話を傾聴し理解したりする能力を育むことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・多様な文化や価値観、ライフスタイルをもつ人々について、関心をもち、関わりをもつことで、生徒一人一人が人生を豊かにすることを目指す。
- ・多文化共生社会に自ら参画し、差別や偏見についての理解を深め、より良い社会を作ろうとする心情を育てる。

実施した内容

- ・多文化共生学習講演『日本で暮らす自分たち～多文化共存のための相互尊重～』において、中国・韓国・ロシアから講師を招いて、日本に暮らす外国人の実情について学ぶ。
- ・東京弁護士会による法教育授業『多文化共生社会にむけて』において、外国人差別の実態について学ぶ。
- ・調べ学習を通して学んだことをまとめ、交流し、自分たちにできることを考える。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・単元のはじめに、日本に暮らす人々と直接交流をもつことで、外国人についてより身近な存在として感じられるようにした。

(関係機関との連携)

- ・中国・韓国・ロシアから講師を招いて講演をしていただいた。また、東京弁護士会による法教育授業も行った。

他教科との
関連

- ・特別の教科 道徳の授業において、外国人についての教材に取り組む際には、直接外国人と交流した経験を思い出しながら、主人公の気持ちについて考えるように促した。

事業成果

- ・知識的側面：社会の中での外国人の現状について理解を深めることができた。
- ・価値的・態度的側面：多文化共生社会の中の一員としての意識をもたせることができた。
- ・技能的側面：共生社会の一員として、問題解決に取り組もうとする能力を育むことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病について正しい知識をもち、偏見や思い込みをなくし、共に生きる意識を育てる。
- ・ハンセン病問題について、ハンセン病回復者の方やその家族を取り巻く現状を知り、人権問題について理解を深める。
- ・偏見や差別のない社会の実現のために、自分たちにできることを話し合ったり、意思決定したりする取組を通して、人権感覚を磨き、人権尊重の態度を養う。

実施した内容

- ・ハンセン病やハンセン病問題についての動画を視聴し、学芸員や弁護士による講義を聞き、ハンセン病問題について理解を深める。
- ・ハンセン病問題に関する新聞を作成することにより、主体的に調べたり、人権問題について考えたりする。
- ・調べ学習や講義を通して学んだことをまとめ、交流し、自分たちにできることを考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ハンセン病「を」知るにとどまらず、ハンセン病「から」学ぶことをテーマに学習を進め、自分たちの身近な問題として偏見や差別の人権課題を捉えられるように発問を工夫した。
- (関係機関との連携)
- ・重監房資料館の学芸員にオンラインで講義をしていただいたほか、東京弁護士会の弁護士に人権の観点から講義をしていただいた。教員はハンセン病資料館の学芸員から研修を受けた。

他教科との
関連

- ・特別の教科 道徳の授業において、「自分とは何か」を考えさせた。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、自他共に尊重できる態度の育成を目指して授業を行った。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病問題を知らなかった生徒がハンセン病問題について詳しく知ることができた。
- ・価値的・態度的側面：「自分とは何か」を考えることを通して、自他共に尊重しようとする態度を育成できた。
- ・技能的側面：話し合い活動では、相手の意見を尊重し、自分の意見もしっかり伝えられる力が高まった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都

学校名

台東区 柏葉中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

中学1、2、3年生・技術・家庭

目標・人権教育のねらい

- ・情報活用能力を身に付ける。
- ・インターネットによる人権侵害について考え、被害者や加害者にならないよう主体的に取り組む。
- ・他者の人権を尊重してインターネットを活用する態度を養う。

実施した内容

- ・情報の技術とは何か、身近な生活の利用場面から考える。
- ・インターネットはどのように生活や社会を変えてきたかを考える。
- ・インターネットを使って興味・関心のあることについて調べ、まとめる。
- ・インターネットを正しく使用するために、留意点や情報を精査することについて学ぶ。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・東京都の「ネットの危険知ってる??」を配布し、身の回りのネットの危険について学習した。また、トラブル相談窓口が掲載されているものを配布した。
 - ・「家庭で見守る 子供のネット・スマホ利用」を配布し、家庭でSNSルールの確認ができるようにした。

他教科との
関連

- ・特別の教科 道徳にて、他人の写真をSNSにあげてしまったことによる友達同士のトラブルや、中学生に身近な事例を挙げ、著作権・肖像権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：情報活用能力について理解を深めた。
- ・価値的・態度的側面：他者の人権を尊重してインターネットを活用する態度が身に付いた。
- ・技能的側面：複数の情報源から精査・分析し、公平な結論に達する力を育成した。